

琉球大学学術リポジトリ

台湾の林業のぞき歩記 (1)

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲宗根, 平男, Nakasone, Hirao メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/20494 |

台湾の林業のぞき歩記

(1)

去る3月13日より2週間余アジア財団の援助で台湾の林業を視察することができた。現地においては省政府林務局、農村復興のために特に設けられた中国農村復興委員会、林務局出先機関の林区管理处などの誠意ある協力で、予期以上の成果をうることができた。

台湾は隣接の地にあり、自然環境も沖縄によく似た処もあつて見るべき点多かつた。日数の都合上西海岸一帯の林業地を回つたがその一部を紹介する。

台北市は人口100万の大都市で広々とした舗装道路が完備し、街路樹も管理が行き届き、「緑ゆたかな島だ」との初印象を受けた。道路の両側には大王ヤシ、ピロウ、アカギなどの並木がそよ風になびいて大都市の美観をいやが上にも高めていた(写真1.ピロウの並木)



市内には官庁、学校は勿論のこと、植物園、動物園、図書館、自然科学博物館などがあり、市民の勉学の場、憩いの場も設けられている。

(写真2.台北植物園の一部)



北部一帯は西表島と同緯度位で、温暖多雨、殊に松類の適地である。日本統治時代よりリュウキウマツの人工植栽が行なわれ、以来60年その面積2万町歩余もあり、生みの親琉球より、育ての親台湾でスクスク伸びているリュウキウマツを見て我々は自責の念にかられた。50年生で伐採され宜蘭のパルプ工場へ送られ一般パルプ原木林となつている。(写真3.小格頭のリュウキウマツ林)



(7)

東海岸宜蘭には蘭陽林区管理処があり、国有林より搬出される木材を直営製材工場にて軍用材、建築材、枕木などに製材し、都市へ送り出している。

台北市より西海岸を南下すると新竹になる。この一帯は茶栽培が盛んで防風垣、被蔭樹としてソウシジユが耕作地を取り囲んでいた。

またレモンユーカリの生育も早く、香料原料としてレモングラスに変わって平地でも植栽し始められていた。

(写真4. レモンユーカリ 5年生)



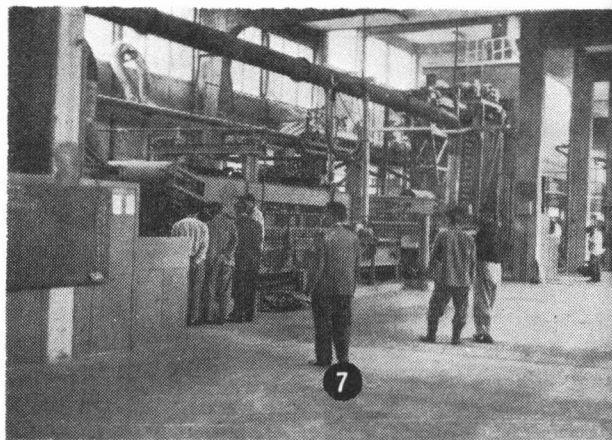
西海岸線一帯は沖積平野が多く、年々隆起して陸地が造成されている。この一帯の丘陵地は崩壊も甚だしいようだ。山崩れ防止にソウシジユの保安林は印象的だった。

(写真5. 苗栗県丘陵地のソウシジユ林)



台湾高山では新高山(玉山)、阿里山などが有名である。日本統治時代よりタイワンヒノキなどはこの山々から伐出されていたが、現在は切りつくされ、大雪山、八仙山へと移り、台中市、豊原が木材集散地となり、新しい木材工業地域として発展しつつある。広い貯木池には貴重木が貯木され日本などへ輸出されている。

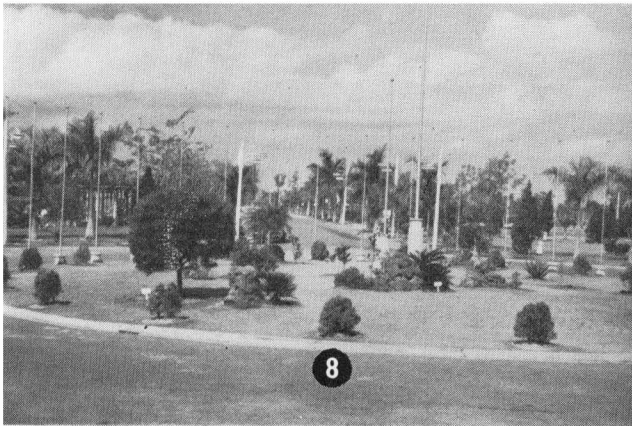
(写真6. 大甲林区管理処の貯木池、写真7. 豊原の最新式繊維板工場)



台中平野は水田地帯の中でも穀倉地帯といわれている。その水田周辺には季節風や台風に供えてモクマオウ、ハウライチクなどの防風垣がえんえんと続いていた。

台中郊外山麓に省政府が移転し、新しい街造りの最中で、近代ビルの新庁舎が立並び、広々とした庭園など、台湾の発展を象徴しているようだ。

(写真8. 省政府の庭園)

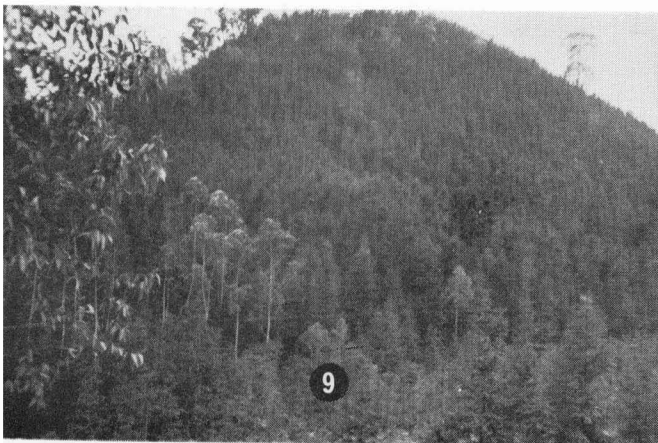


また竹林も多く、竹材は勿論、竹の子の生産も盛んで、その集散地が竹山の町である。

(写真10. 竹山の竹の子朝市)



台中より山手の南投県へ入る。この県は海に面しない山林地帯で、国立公園日月潭あり、高砂族部落の多い地域である。山林収入が主で住民の愛林熱も高いようだ。民有林は勿論、国有林の貸付地などにコウヨウザンの植林が盛んである。現今では企業として立派に成功し、将来の台湾林業を担うのではないかと、その熱意に感を新たにした。(写真9. コウヨウザンの植林地)



竹山から約10キロ山奥に台湾大学演習林がある。広大な面積を有し、学生実習はもとより、事業も活発に行なわれているようだ。もと東京大学演習林を引継ぎ、スギ、ヒノキのうつそうと茂つた美林を歩くと、日本林業地視察をしているような錯覚に落ちいった。

(写真11. スギ、ヒノキ、植林地)

(仲宗根平男)

